

ある日の育児日記から

(47)

佐藤 和代



「初めてのお使い」というテレビ番組をご存じでしょうか。二歳から五歳くらいの子が、生まれて初めてひとりで買い物に行く。それを隠し撮りするのですが、なかなかおもしろいのです。より道する子、違うものを買ってしまう子、立往生する子。よし、圭も五歳。交通量の多い所で心配だったけど、そろそろお使いできるかな。楽しみ！

ところが。私の思い入れも知らず、圭は勝手に初体験をすませてしまったのです。家の中でお金をみつめて、「あつ百円おちてた、もらっていい？」お父さんが「いいよ」と言うと、そのまま

コンビニへ行ってガムを買ってしまった…。何よー、これが「初めてのお使い」？ 全然劇的でも何でもないじゃない。

がっかりした私が、友人にその話をする、「それはよくない。買い食いなんて許しちゃダメ」と責められてしまいました。確かにそうだけど、うちの子らしいといえはらしいわね。親の目からのがれたスキに成長してしまうというのも、子どもの成長のしかたのひとつよ。何もかも親がお膳立てしなくてもね…。

というわけで、責められたおかげで、逆にパチパチほめてやりたくなってしまう私。こういうの、アマノジャクというのかしら、親バカというのかしら。



有は2オ、トイレうんち…はいりんた'けど。